

2019年  
6月4日  
火曜日

栗田 匡相 准教授（開発経済学）

# 未来のあなたには 何もなくてよろしい

「私は何のために、何をしに生まれてきたのだろう」と思うことがよくあります。「私のしたかったことは何だったのだ」と考えてみることにありますが、実は何もないので、誰かに頼まれればやり、おだてられればやったのです。」

宮本常一

これを読んでいるのは、まあ二十歳前後の人たちで、進路に困っていたり、選んだ進路に不安を持っていたりする人が多いのかな。指導教官という立場上のこともあるが、うちのゼミ生とは、よく飲みに行ったり、サッカーをしたり、アフリカの最貧国家に出かけたり、寒中水泳をしたりと、通常の教員と学生という枠を超えた妙な濃い付き合い（？）をしているため、年末年始となれば3年生から進路相談を受けることも多々ある。できうる限りきちんと話

を聞いて、それに対して思ったことを伝えていく。でも、学生達は別に私に行く道を指し示してもらいたく話して来るのではないんですよね（教員に能力が無いからという正しい批判はさておき）。自分が真剣に考えたことを、思っていることを聞いて欲しいと願っているのだと思う。真剣な願いを聞くことが出来る機会は人生の中で何度もあるものではないからこつちもできる限りそれに応えようとする。僕と学生の個人的な関係を考えればそれでハイおしまいなんだけど、でも一方で世の中は真剣な願いを求めない若者の自己責任を問うことこそあれ、世の中の大人がその真剣さを受けとめられる人間であるかどうか、あるいは若者を刺激できる魅力的な大人であるかどうかを問うことはほとんどないでしょう。はい、だから社会や大人に期待するのは金輪際やめましょう（無

責任！）。大体期待なんて言葉は未来のことで、どうなるのかよくわからないことなからさ。未来を頼っても意味がないんですよ。だからこつちがよくなるとか悪くなるとか確率的な話は、お勉強の中と人に優しくするためだけに使いましょ（学問を修める唯一で最高の大変有意義な使い道です）。自分が何者かを考える時に、どうやって生きていくのかを考える時に、少なくともあなたの人生というあなただけのことを考える時に、確率なんて持ち出して人や世間を頼っちゃダメですよ。重要なことは宮本常一みたいに周囲を「気楽に」受け入れられているかってこと。受け入れるのは他人だけじゃなくて、失敗したり、人を傷つけたりする自分もいるっていう辛いことも含めてですね（人間なんてそんなものとか確率的な方向に頭を使う必要は全然無いですよ）。そして

自分から色々引き受けに出かけて欲しい。世界には知らないことがたくさんあるから外へ出かけて、言葉が出ないほどの驚きや悲しみや喜びをまずは一杯で引き受けて欲しい。そんな君の真剣な人生を待っている人が、この世の中には必ずいます。未来とは期待ではなく確信としての連なりとしてのあなた自身です。その連なりにはたくさんの子どもも大人も様々なことが必要で、沢山関わってくれからワクワクしている。ただし未来の地にいるあなたは今のあなたとは別人だから、いくら確率的にその姿を想像しても無意味です。そんなくだらないことに頭を使わないで、きっかけなんて何でもいからまずは気楽にワクワクして飛び出すことから始めようね。